

1. 事業の位置付け

事務事業名	囲碁文化振興事業		
事業担当	市民部 文化・交流課		
予算科目	01-030106-170000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等	文化芸術振興基本法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input checked="" type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 平塚市文化財団 <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
囲碁に関連した各種イベントを開催することにより、囲碁文化の向上と振興が図られています。		囲碁文化の向上と振興のため、各種イベントなどを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	囲碁普及事業数						単位	事業
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		23	25	25	25	25	25	
	実績		22	20					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	囲碁普及事業参加者数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		9,600	9,700	9,800	9,800	9,800	9,800	
	実績		8,714	9,801					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	②：若干遅れている								
	遅れている理由	「囲碁サミット」の開催に伴い、事業数を減らして対応したため。							
平成20年度の主な取組と成果									
全国初となる「囲碁サミット」を開催し「囲碁のまちひらつか」を全国に発信できました。また、棋聖戦、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与できました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民ニーズや「文化芸術振興基本法」による規定、文化振興の安定性、継続性の確保の観点から必要性は高い。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	事業展開の改善を図りながら、有効性を高めていくことが必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	本市の貴重な文化資源である囲基文化の普及、振興の観点から目的、対象、内容ともに妥当性は高い。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事業経費は、更なるコスト削減に取り組む必要があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
<b>今後に向けた課題の分析</b> 必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。				

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			各種イベントなどの実施	各種イベントなどの実施	各種イベントなどの実施	各種イベント等の実施	各種イベント等の実施	各種イベント等の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	15,800	0	0	0
	一般財源	0	11,890	15,378	0	11,800	11,800	11,800
事業費 (A)		0	11,890	15,378	15,800	11,800	11,800	11,800
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.55	0.55	0.50	0.50	0.50	0.50
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.05	0.05	0.05	0.05
人件費 (B)		0	4,616	4,616	4,351	4,351	4,351	4,351
フルコスト (A+B)		0	16,506	19,994	20,151	16,151	16,151	16,151

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<b>&lt;判断理由&gt;</b> 囲基文化の普及・振興を目的として、今後も各種イベントの数、参加者を拡大して継続していきます。	
平成22年度の取組方針	
今後も、効率的な事業実施の検討や事務経費の見直しを行い、事業効果を高めていく必要があります。	
課長コメント	囲基文化の普及・振興を目的として、今後も各種イベントの数、参加者を拡大して継続し、囲基人口の裾野の拡大を図っていきたいと考えています。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	②：若干遅れている
主な取組と成果		事業数は昨年より1事業少なかったが、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与した。	全国初となる「囲碁サミット」を開催し「囲碁のまちひらつか」を全国に発信できました。また、棋聖戦、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与できました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組む。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。
事業の方向性	—	拡大して継続	拡大して継続
取組方針		今後も、効率的な事業実施の検討や事務経費の見直しを行い、事業効果を高めていく必要がある。	今後も、効率的な事業実施の検討や事務経費の見直しを行い、事業効果を高めていく必要があります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館特別展事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
予算科目	01-100504-010000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 館事業参加市民】		
目的・目標		事業の概要	
学芸員の研究成果が特別展で公開され、市民の知的共有財産となっています。		学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	特別展開催日数						単位	日
	説明・算定式	夏期・秋期・春期特別展、企画展、博物館まつりの開催日数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		138	150	150	150	150	150	
	実績		159	157					
活動指標②	指標名	特別展関連事業開催日数						単位	日
	説明・算定式	期間中の講演会・見学会等							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		13	20	20	20	20	20	
	実績		20	33					
成果指標①	指標名	特別展開催期間中の入館者数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		37,000	37,000	38,000	38,000	38,000	38,000	
	実績		31,728	44,664					
成果指標②	指標名	図録売上部数						単位	部
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		500	550	550	550	550	550	
	実績		644	503					
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
20年度は夏期特別展「こだわりの100選」展、秋期特別展「金目川物語」展、春期特別展「加藤あきさんのスケッチ帳より」展の3回開催し、「博物館まつり」は博物館で活動している各サークルの1年間の活動成果を展示し、発表会を行いました。これらにより特別展事業の充実を図ることができました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	博物館で進めた調査研究、市民との協働による調査の成果をいち早く市民に公表します。また、博物館まつりは博物館事業に参加する市民が企画運営することで満足度を高くするものであり、必要です。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	特別展は日常の調査や資料収集活動を市民と協働して実施した成果発表の場であり、市民の関心もあります。継続することで地域情報の蓄積がされます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	博物館で進めた調査研究、市民との協働による調査の成果を踏まえ、市民に地域の資料などを展示し、観察会、体験学習、講座などを行うことは、地域博物館の使命に合致します。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	調査資料の整理、写真データの保存等に館独自のシステムを構築し、活用しています。データ入力などは市民と協働で進めていることもあり、かなりのコスト削減を進めています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
<b>今後に向けた課題の分析</b> 博物館が市民と協働で実施している調査活動成果を公表するために、今後も特別展事業の充実は欠かせないと考えます。				

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			「平塚の地盤展」などの特別展の開催	「金目川展」などの特別展の開催	「相模川の水運展」などの特別展の開催	地質部門等の特別展の開催	民俗部門等の特別展の開催	生物部門等の特別展の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	1,933	1,407	1,198	1,200	0	0
	一般財源	0	6,259	5,227	5,547	5,800	7,000	7,000
事業費 (A)		0	8,192	6,634	6,745	7,000	7,000	7,000
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.85	0.85	0.85	1.00	1.00	1.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	7,133	7,133	7,103	8,356	8,356	8,356
フルコスト (A+B)		0	15,325	13,767	13,848	15,356	15,356	15,356

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<b>&lt;判断理由&gt;</b> 博物館が市民と協働で実施している調査活動成果を公表するために、今後も特別展事業の充実は欠かせないと考えます。	
平成22年度取組方針	
特別展の外注部分である図録、ポスターなどの印刷の編集作業部分は職員がやっており、これ以上の削減は難しい環境にありますが、使いやすいソフトの購入などでかかる時間数などの改善を図ります。	
課長コメント	特別展事業を通して、様々な情報を発信し、その情報を市民と共有することによって、魅力あるまちづくりに寄与できるものと考えます。

## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		特別展は開館以来年3回開催しているが、平成19年度は企画展を1つ追加開催した。企画展「科博コラボミュージアム in 平塚—今年はどういう年」は国立科学博物館理工学部門と共同で実施した。「博物館まつり」は博物館で活動している各サークルの1年間の活動成果を展示し、発表会を行った。これらにより特別展事業の充実を図ることができた。	20年度は夏期特別展「こだわりの100選」展、秋期特別展「金目川物語」展、春期特別展「加藤あきさんのスケッチ帳より」展の3回開催し、「博物館まつり」は博物館で活動している各サークルの1年間の活動成果を展示し、発表会を行いました。これらにより特別展事業の充実を図ることができました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		博物館が市民と協働で実施している調査活動成果を公表するために、今後も特別展事業の充実は欠かせないと考える。	博物館が市民と協働で実施している調査活動成果を公表するために、今後も特別展事業の充実は欠かせないと考えます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		特別展の外注部分である図録、ポスターなどの印刷の編集作業部分は職員がやっており、これ以上の削減は難しい環境にあるが、使いやすいソフトの購入などでかかわる時間数などの改善を図る。	特別展の外注部分である図録、ポスターなどの印刷の編集作業部分は職員がやっており、これ以上の削減は難しい環境にありますが、使いやすいソフトの購入などでかかわる時間数などの改善を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	魅力ある展覧会開催事業		
事業担当	社会教育部 美術館		
予算科目	01-100506-010000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	観覧者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
小中学生対象の展覧会や、知名度のある作家や映像作品展等を開催することにより、新たな観客層が増加しています。		国内外の優れた近現代美術作品に接する機会を充実するため、テーマを設定した企画展と所蔵品を活用した特集展を開催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	企画展・特集展開催回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		12	13	12	12	12	12	
	実績		12	12					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	企画展・特集展観覧者数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		60,000	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	
	実績		118,839	76,286					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
絵本作家の田島征三展や速水御舟展、地元作家の展覧会など年間12本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、7万6千人を超える観覧者数となりました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	親子連れから高齢者に至るまで多くの方々に観覧いただき、芸術・文化の振興目的が達成できました。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	多くの市民に関心を持たれる展覧会の開催と今後も市民の満足度を高められるよう事業を継続します。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	市民の芸術・文化の振興という目的に合致しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	巡回展の開催で経費節減を目指します。	○ 高 ● 中 ○ 低	
<b>今後に向けた課題の分析</b> 親子連れから高齢者に至るまで、多くの方々が満足する展覧会を行って固定客の獲得をめざします。				

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	27,272	36,863	36,000	36,000	36,000
	一般財源	0	42,857	26,104	8,568	9,000	14,000	9,000
事業費 (A)		0	42,857	53,376	45,431	45,000	50,000	45,000
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	3.55	3.55	3.05	3.05	3.05	3.05
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.10	0.10	0.10	0.10
人件費 (B)		0	29,789	29,789	25,831	25,831	25,831	25,831
フルコスト (A+B)		0	72,646	83,165	71,262	70,831	75,831	70,831

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続    ○ 拡大して継続    ○ 縮小して継続    ○ 廃止    ○ 休止    ○ 終了    ○ 他事業と統合	
<b>&lt;判断理由&gt;</b> 近現代の作品の展覧会や親子連れが関心を持つ内容など、幅広い年代層が楽しめる展覧会を企画します。	
平成22年度の実行方針	
幅広い年代が満足する企画展の開催と巡回展の開催をします。	
課長コメント	親子、若者、女性等幅広い年代が楽しめる展覧会を開催し、リピーターとして定着するよう努めます。



## 5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		動物彫刻展、学校教材である宮沢賢治展や地元作家の展覧会など年間12本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、11万人を超える大幅な観覧者増となった。	絵本作家の田島征三展や速水御舟展、地元作家の展覧会など年間12本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、7万6千人を超える観覧者数となりました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		親子連れから高齢者に至るまで、多くの方々が満足する展覧会を行って固定客の獲得をめざす。	親子連れから高齢者に至るまで、多くの方々が満足する展覧会を行って固定客の獲得をめざします。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		幅広い年代が満足する企画展の開催と巡回展の開催	幅広い年代が満足する企画展の開催と巡回展の開催をします。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。